

懐徳堂を彩るデジタル・コレテレツ

—よみがえる大坂の知の遺産—

江戸時代、大坂の町人五同志によって、学問所「懐徳堂」が創設されました。伝統的な倫理道徳を尊重しながらも、自由で批判精神に満ちた懐徳堂の教育は、優れた町人学者を数多く生み出し、大坂文化の発展に寄与してきました。

その後、懐徳堂学舎は失われてしまいましたが、幸いなことに、その知的遺産である「懐徳堂文庫」は大阪大学に受け継がれ、現在に至っています。

2001年、創立70周年を迎えた大阪大学では、マルチメディア手法による「懐徳堂」の再現・公開に取り組みました。時代を経ても決して輝きを失うことのない「懐徳堂精神」を背景に、コンピュータグラフィックスで学舎を再現した「バーチャル懐徳堂」、貴重資料を多面的に閲覧することのできる「懐徳堂データベース」といったデジタルコンテンツを制作しました。

そして、これらのデジタルコンテンツは、今後も規模と内容をさらに拡充していく予定です。

21世紀、「懐徳堂」は大坂から世界へ向けて情報発信し、新しい歴史を刻んでまいります。

大阪大学 大学院文学研究科
財団法人 懐徳堂記念会

<式台>



<講堂>



豪商たちが軒を連ねたという大坂・今橋界限
そこに、「表口十一間半、奥行二十間」の懐徳堂があった
現存していない建物だが、CGIによって見事にその姿を現した

バーチャル懐徳堂



◀パソコンの中に再現された懐徳堂

「バーチャル懐徳堂」は、昭和6年に学主の子孫である中井木菟麻呂氏の記憶をもとに描かれた図面と、「懐徳」第9号に掲載されたわずかな記述だけを頼りに寛政8年再建時の建物主要部分を、コンピュータグラフィックスによって三次元空間に再現したものです。

壁にかけられた額や拓本などの器物は、大阪大学の懐徳堂文庫に保存されている実物をデジタル化したものです。当時の雰囲気をはるかに忠実に再現した映像からは、町人社会の気風を反映した懐徳堂の自由で活気に満ちた学術精神を感じることができます。

懐徳堂データベース

懐徳堂データベース「新建懐徳堂」には、懐徳堂及び文庫についての幅広い情報が集約されています。まず「懐徳堂入門」では、歴史や資料について紹介。学問所成立の過程はアニメーションで大阪弁のセリフとともに楽しく展開します。

「関係人物」「資料名」「形状」「漢籍分類」の4つのカテゴリから検索できる「懐徳堂文庫」ページでは、貴重資料に関する書誌情報や解題のほか、拡大して見ることのできる画像なども紹介。代表的な資料については、全文の翻刻ならびに現代語訳も用意して、より専門的に学ぶことも可能です。漢籍を含む文庫情報のwebブラウザ表示では、XMLと特別な外字表示技術を採用しているのも特徴です。



<データベース画面>

<懐徳堂年表>

<懐徳堂物語>

懐徳堂デジタルコンテンツ

懐徳堂の知の宇宙・懐徳堂電子的博物館

「懐徳堂」への新たなアプローチを試みたのが、懐徳堂デジタルコンテンツです。このコンテンツは、懐徳堂文庫に保存されている器物を解説付で紹介した「懐徳堂電子的博物館」と、中井履軒・山片蟠桃らが残した器物をモチーフに、懐徳堂の獨創性や宇宙観をストーリー編集した「懐徳堂の知の宇宙」で構成されています。



<懐徳堂の知の宇宙>

<懐徳堂電子的博物館>

懐徳堂文庫電子図書目録

1976年に刊行された『懐徳堂文庫図書目録』(大阪大学文学部)は、懐徳堂文庫の全貌を概観できる貴重な資料ですが、すでに絶版となっています。

そこで、この目録をデジタルアーカイブ化し、関連する懐徳堂文庫データベース情報と連動させて新しくコンテンツ化を図りました。これが「懐徳堂文庫電子図書目録」です。将来的にはコンテンツをweb公開することで、より多くの関係者による情報の蓄積と共有化を図り、「懐徳堂文庫」研究を積極的に促進していきます。

